

著作権処理状態管理システム開発仕様案

2011 年 1 月 31 日

一橋大学附属図書館

著作権処理状態管理システム開発仕様案

1. システム仕様

1.1. 著作権処理状態項目

本サブシステムが管理する著作権処理の状態の項目は以下とする。「備考」はローカルで管理する状態を記載する項目である。これらの項目は当該状態および「備考」のみ画面上に表示する。ただし、複数の状態を表示する場合もありうる(1.3.1③参照)。

- ① 未着手
- ② 著者連絡先調査中
- ③ 著者許諾依頼中
- ④ 出版者著作権ポリシー確認中
- ⑤ 出版者連絡先調査中
- ⑥ 出版者許諾依頼中
- ⑦ 本文提供待ち
- ⑧ 電子化待ち
- ⑨ 公開済
- ⑩ 終了
- ⑪ 備考

1.2. 著作権処理情報

本サブシステムが管理する著作権処理の情報は以下とする。「備考」はローカルで管理する状態を記載する項目である。これらの情報は常時画面上に表示する。

- ① メタデータ
- ② 著者連絡先
- ③ 著者許諾結果
- ④ 著者許諾依頼手段
- ⑤ 出版者著作権ポリシー（著者版/出版社版、エンバーゴ期間、その他）
- ⑥ 出版者連絡先
- ⑦ 出版者許諾依頼手段
- ⑧ 出版者許諾結果
- ⑨ 共著者の有無
- ⑩ 備考

1.3. 著作権処理状態の遷移

1.3.1. 基本仕様

- ① 1.1 の⑨「公開済」もしくは⑩「終了」を以って、1 案件の完了とする。なお、著作権処理状態の基本的な遷移については、別紙を参照すること。
- ② 1.1 の①から⑩までの状態の遷移・変更については、各機関リポジトリのローカルの事情に対応するため、一部を除き(1.4⑥、1.6.2①など)、基本的にユーザ(主として機関リポジトリ担当者、以下同様)が手作業で行うものとする。
- ③ 著者許諾(1.1②-④)、出版者許諾(1.1⑤-⑧)は、同時並列的な状態管理が可能なこと。

1.3.2. タイムスタンプ

- ① 1.1 の①～⑩の各状態に対し、遷移開始時と終了時をタイムスタンプとして記録すること。1.1 の⑪については、記載した毎に日時を記録すること。
- ② 案件毎に終了した全状態の状態名とタイムスタンプを参照できること。

1.4. 著作権処理状態の管理

- ① 案件のメタデータをキーワード検索でき、一覧表示できること。
- ② 1.1 の①から⑩の各状態について、当該状態中の全案件を抽出し、一覧表示できること。
- ③ デフォルトは、1.1 の⑨「公開済」および⑩「終了」以外の状態の全案件を一覧表示すること。
- ④ 一覧表示した案件について、経過時間により抽出ができ(ある状態に 1 ヶ月以上停滞している場合など)、一覧表示できること。経過時間は状態毎にユーザで設定できること。
- ⑤ ④で「出版者許諾依頼中」の場合、本サブシステムから督促メールを出力できること。また、督促メールの雛形をユーザで設定できること。
- ⑥ 一覧表示した案件について、一括で一状態(例えば「終了」)に遷移できること。
- ⑦ 時期を指定する(例えば、YYYYMMDD 形式)ことにより、指定した時期の全案件の状態を抽出し、一覧表示できること(スナップショット)。
- ⑧ メタデータを修正できること。
- ⑨ 連絡先が判明しなかった著者の連絡先が判明した場合(判明するまで、「著者連絡先調査中」状態)、連絡先を格納できること。
- ⑩ 著者への許諾依頼手段(メール、文書等)を格納できること。また、1.10.3 のデータソースからの抽出機能より、データソースからメールアドレスを抽出できた著者に対しては、著者許諾依頼手段は「メール」を格納・表示すること。

1.5. 著作権ポリシーDB への問合せ

著作権ポリシーDB(SHERPA/RoMEO、SCPJ)について、メタデータ中の雑誌名や ISSN をキーにして、当該雑誌の著作権ポリシーを機械的に入手できること。技術的な詳細は、それぞれの API のページを参照すること。

SHERPA/RoMEO

<http://www.sherpa.ac.uk/romeo/api.html>

SCPJ

<http://scpi.tulips.tsukuba.ac.jp/info/api.html>

1.6. 出版者への問合せ機能

1.6.1. ローカル出版者 DB

- ① ローカル出版者 DB は、国内用と海外用の 2 つ持つこと。国内用は、1.5 の SCPJ に、海外用は、1.5 の SHERPA/RoMEO に問合せし、著作権ポリシーを機械的に入手すること。
- ② 出版者の住所、郵便番号、メールアドレス、FAX 番号等の連絡先と許諾依頼手段、許諾結果および著作権ポリシー等の項目を 1 件の出版者データとして格納できること。
- ③ 出版者別、雑誌名別、許諾の種類(Green 等)別に出版者データを一覧表示できること。
- ④ 出版者名、雑誌名等の出版者データをキーワード検索し、一覧表示できること。

1.6.2. 問合せ機能

- ① 1.5 で著作権ポリシーが不明であった場合、ユーザが雛形(日本語および英語)を設定し、判明した出版者のメールアドレスや FAX 番号に対し、メール送信や FAX 出力が可能なこと。なお、本機能により、メール送信や FAX 出力した場合、「出版者許諾依頼中」状態にすること。
- ② 出版者との送受信メールを保存し、検索・一覧表示できること。

1.7. 著者版/出版社版の管理

1.5、1.6 で判明した著作権ポリシーのうち、著者版/出版社版を、他の著作権ポリシーの項目と別に格納できること。

1.8. エンバーゴ管理

- ① 1.5、1.6 で判明した著作権ポリシーのうち、エンバーゴ期間を、他の著作権ポリシーの項目と別に格納できること。
- ② メタデータ中の出版年月もしくは年月次にエンバーゴ期間を足した時期もしくはユーザが設定した時期に、登録可能になった旨のメールをユーザに送信できること。
- ③ ②のメールの内容について、機関リポジトリで本文公開可能、機関リポジトリで本文＋メタデータ公開可能、出版者への照会可能など、エンバーゴの種類を案件毎にユーザで設定できるようにすること。

1.9. 公開許諾書の作成

著者から許諾があった案件について、著者名、日付等を雛形に埋めることにより、著者からの公開許諾書を PDF 形式で作成できること。なお、雛形はユーザで設定できること。

1.10. 他のサブシステムとの連携

1.10.1. 教員問合せシステム

- ① ユーザが著者に登録依頼をしたい案件について、メタデータおよび 1.7 で格納した著者版/出版社版の情報を教員問合せシステムの対応するデータに引き渡すこと。
- ② 1.4④で「著者許諾依頼中」が一定期間続いた場合、教員問合せシステムに督促メールを出力できる情報を提供すること。なお、督促までの期間はユーザが設定できること。

1.10.2. リポジトリ投稿システム

- ① リポジトリ投稿システムから投稿された本文ファイルのファイル名を取り込めること。
- ② 本文ファイルをウェブ画面から閲覧でき、メタデータと照合できること。
- ③ 著者からの許諾結果を保存し、日付や著者名等で検索できること。

1.10.3. データソースからの抽出機能

- ① データソースから抽出したメタデータを取り込めること。その際、メタデータに本サブシステムでユニークな ID を持つこと。
- ② 取り込んだメタデータに対し、DOI や、ISSN＋巻＋号＋ページの組み合わせなどにより、新たに入力したデータが既に登録されているか重複チェックを行い、重複していた場合、アラートを表示し、新たに登録するか確認できること。

1.11. データの入出力

- ① 1.4①で抽出した状態の案件の著作権処理情報とその状態名を Excel で読み込める形式 (TSV 形式など) で出力できること。また、出力する項目の順序をユーザが設定できること。
- ② 1.10.2 で取り込んだ、本文ファイル名がある案件について、そのファイル名と対応する案件のメタデータを、機関リポジトリソフトウェアの一括登録機能で登録できるよう、Excel で読み込める形式 (TSV 形式など) で出力できること。
- ③ ユーザが、①で出力する形式で作成したファイル (TSV 形式など) をインポートできること。その際、メタデータに本サブシステムでユニークな ID を付与すること。
- ④ ③でインポートしたメタデータ (案件) と 1.10.3 のデータソースからの抽出機能により取り込んだメタデータ (案件) を区別、抽出できること。
- ⑤ 本サブシステムの ID が付与されているデータがインポートされた場合、差替えとみなし、既存のデータをインポートしたデータで上書きすること。
- ⑥ DOI や、ISSN+巻+号+ページの組み合わせなどにより、新たに入力したデータが既に登録されているか重複チェックを行い、重複していた場合、アラートを表示し、新たに登録するか確認できること。

1.12. 共著者許諾への対応

- ① 新規に取り込んだ案件について、メタデータ中に著者が複数いると判断される場合、1.2⑨の「共著者の有無」で「有」を表示すること。単数と判断される場合、「共著者の有無」で「無」を表示すること。不明な場合、ユーザが、案件毎に「共著者」の有無を設定できること。
- ② 共著者有の案件で、共著者にも許諾を依頼するユーザに対し、複数著者に許諾依頼を行うため、著者許諾自体も、著者数分、同時並列的な状態管理が可能なこと。その場合、共著者の連絡先は、ユーザが調査することになる(「著者連絡先調査中」状態)。
- ③ 共著者への許諾の実施の可否については、ユーザ毎および案件毎に、ユーザで設定できるものとする。ユーザ毎を設定した場合、当該ユーザの全案件に適用させること。

1.13. SWORD 対応

SWORD のクライアント機能に対応し、1.10.2 で取り込んだ本文ファイル名がある案件について、SWORD で、メタデータと本文を機関リポジトリに登録できること。なお、SWORD の技術的な詳細については、以下を参照すること。

[http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?plugin=attach&refer=tech&openfile=sword-pr
ofile-1.3-20081007.html](http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?plugin=attach&refer=tech&openfile=sword-pr
ofile-1.3-20081007.html)

<http://wwmm.ch.cam.ac.uk/~ojd20/sword-profile-1.3-20081007.html>

1.14. 統計機能

- ① 各ユーザの SCPJ および SHERPA/RoMEO での著作権ポリシー判明率を出力できること。
- ② 年度毎の取扱件数、許諾件数、処理中件数など、各ユーザの統計値を出力できること。

1.15. 設定作業

- ① 1.1、1.2 の各状態や情報について、ユーザが使用しない状態や情報を設定でき、その場合、当該状態や情報を使用せずに管理ができること。
- ② ユーザの設定作業は、ウェブ画面から容易に行えること。

2. 求められるシステム・機能

2.1. サービス形態

パッケージ配布では、サーバの調達やサーバへのインストール作業などの負担が重く、多くの機関リポジトリに波及することは難しい。また、どのようなシステムかを大学が事前に確認・評価できると、導入の可否の判断が容易になるので、以下のサービス形態が求められる。

- ① システム全体を、SaaS として提供されることが強く望まれる。
- ② どのようなシステムなのかユーザが事前に確認や評価できるデモサイトを構築し、提供することが望まれる。
- ③ パッケージ配布にせざるを得ない場合、サーバへのインストール作業が極めて容易にする必要がある(Windows のアプリケーションの Setup プログラムのようなイメージ)。

2.2. サブシステムのモジュール化

すでに独自の著作権処理状態管理を行っている大学では、本システムのデータソースからの抽出機能など、システム全体ではなく、サブシステムのみを導入したいという要望を持っている。そのため、各サブシステムは独立性を持ち、サブシステム間連携は疎結合(API 化や Excel 形式での入出力可能化等)にするなどの、サブシステムのモジュール化が求められる。

2.3. ローカル出版者 DB の共有

1.6.1 はユーザが集めた個別の出版者著作権ポリシーの事例集である。ただ、SCPJ や SHERPA/RoMEO に収録されていない学協会や雑誌の論文を登録する上で、他大学の事例を共有できれば、許諾の可能性を判断でき、許諾依頼に優先順位をつけられ、効率的な著作権処理が可能となる。それゆえ、ユーザのローカル出版者 DB を共有できることが強く望まれる。ただし、共有の際は、以下の点に留意する必要がある。

- ① 出版者の公式回答ではないので、ユーザしか閲覧できないようにすること。
- ② 国内学協会誌で、出版者の公式回答と思われる場合、SCPJ に連絡できる機能を有すること。
- ③ 出版者名や雑誌名等で、各ユーザのローカル出版者 DB を横断的に検索・表示できること。
- ④ 各ユーザのローカル出版者 DB の出版者データを集計し、出版者別許諾依頼件数、許諾件数、許諾率など、出版者の許諾の程度がわかる統計値を出力できること。

2.4. 研究者 DB との連携

多くの大学では、研究者 DB をデータソースとして使用していることが判明した。また、予算的な理由で Scopus や Web of Science を導入できない大学も少なくない。さらに、研究者 DB と機関リポジトリが密接に連携している大学もある。それゆえ、研究者 DB との連携について、以下の機能を有することが望まれる。

- ① 研究者 DB の業績データを一定のフォーマット(例えば、1.11③)にすれば、データソースとして使用できること。
- ② 取り込んだメタデータを一定のフォーマット(例えば、1.11①)で出力し、研究者 DB の基礎データとして使用できること。
- ③ 著者を識別するユニーク ID と著者名の表を取り込むことができ、それをを用いて、メタデータに当該著者のユニーク ID を格納できること。